

明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部
会報委員会
事務局：千代田区麹町 3-1-1
(株)昭栄広報内
電話：03-3265-4071
<http://www.jinryoku.com/>



ご挨拶

関東支部会長 昭和44年卒 瀬戸 渡

平成の時代も30年という時を経て終わり、新しい時代が近づいています。この会報がお手元に届くころには新元号が発表されているかもしれません。



今年、例年にない忙しい一年になりそうです。5月は即位の式典に始まり、ゴールデンウィークは10連休になるため国内海外を問わず主たる旅行は去年からすでにキャンセル待ちの状態ということ。9月には全国各地でラグビーワールドカップが開催されます。日本での開催はもちろん初めてのことで、外国から多くのファンが詰めかけることが予想され、昨年からの発売されているチケットはいずれも入手困難な状況です。10月には消費税が10%にアップされます。景気の落ち込みがなければいいのですが・・・そして来年2020年は東京オリンピックです。我々団塊の世代がTVにかじりついて日本選手を応援したのは半世紀以上前の出来事です。

「おりや、孫ば連れてオリンピックくば見に行くまで、死なれん！」

どうやら日本の平均寿命はまた延びそうな勢いです(笑) さて、関東同窓会もお陰様で第33回を迎えます。10連休が終わり風薫る初夏、5月19日曜日お昼からの開催です。平成30年卒のみなさんが当番実行委員として半年前から準備を進めてくれています。今年は学生の参加費を無料とします。先輩後輩同期とどうぞたくさんの方の皆さんの参加をお待ちしております。

申し上げるまでもなく関東同窓会の使命は、同窓生相互の親睦と母校の発展に寄与することです。当番実行委員になることによって、卒業後初めて再会する方が殆どだと思いますが、この活動を通じて新たな交流が終生続くようになります。母校のための活動は主に各年次から選出された役員幹事の仕事になります。これからも関東同窓会が生徒諸君の進路支援、生活支援のため活用いただける組織としてますます発展するこ

とを願っております。

最後になりましたが、私は今度の総会をもちまして会長を退任します。代表幹事の時代を含め20年の長きに亘り、副会長、代表幹事、事務局長、学年幹事など多くの皆様のご協力により務めることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

ご挨拶

校長 内田 武文



瀬戸渡関東支部会長様をはじめ、明善同窓会関東支部の皆様には、日頃から本校、並びに本校生徒に対して、関東の各地からあたたかいご支援を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は私自身も、関東支部総会に出席させていただきました。皆様方から励ましのお言葉をいただきました。更には、本年度から始めました7月の第1学年理科・総合文科コースの大学訪問研修では、東京大学にて昭和59年卒業の林正義教授による講義、瀬戸関東支部会長からのお声かけで、多くの卒業生の皆様に参加いただき講話や座談会、諸藤貴志様が経営されている株式会社アグリメディア訪問等、関東支部をあげて支えていただき、参加した生徒たちにとりまして本当に有意義な研修を行うことができました。心から感謝申し上げます。

さて、本校の近況ですが、2年生が昨年12月はじめに修学旅行を行い、4泊6日の日程でベトナム・カンボジア両国を訪問しました。本年度で6年目を迎えますが、カンボジア・シムリアップでは現地小学校と、ベトナム・ハノイでは2つの高校と交流を行い、多くのことを学びました。カンボジアの純朴な小学生の輝く瞳に感動し、英語、日本語で語りかけてくる現地高校生の積極性に圧倒され、同じアジアの一員としての自身を見つめ直す機会になったことと思います。そして1月19日(土)・20日(日)に大学入試センター試験が行われ、3年生はいよいよ受験本番を迎えております。自己採点を行い、目標の点数に到達した生徒、

そうでなかった生徒、それぞれではありますが、皆最後まであきらめることなく、志望する国公立大学、私立大学への合格を目指して勇往邁進しているところ

です。 また、部活動についての特記すべきご報告ですが、昨年夏に行われた全国高等学校総合文化祭において、本校化学部3年生が「馬鈴薯澱粉の加水分解に伴うヨウ素呈色の色変化」について研究成果を発表し、最優秀賞(1位)を受賞いたしました。その後、12月に行われた高校生科学技術チャレンジJSEC2018では花王賞をいただき、本年5月にアメリカ・アリゾナ州フエニックスで行われますIntel International Science and Engineering Fair (ISEF2019 国際大会) に日本代表として出場することが決定しました。

本年は、県立移管140周年の記念すべき年にあたります。職員・生徒一同、「克己」盡力・楽天」の校訓のもと、これまでの良き伝統を受け継ぎ、更なる発展を目指して教育活動に取り組んで参る所存であります。関東支部の皆様方におかれましては、母校、そして後輩達へ変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。ご報告を兼ねてご挨拶とさせていただきます。

同窓会会長に就任して

同窓会会長 昭和50年卒 内村 直尚



明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、同窓会の運営にご指導・ご鞭撻をいただいております。すこと、心よりお礼申し上げます。

明善同窓会館(歴史資料館)は平成30年2月に内装工事完了し、明善高等学校校舎は平成30年度完了予定、外壁工事も31年度までには終了予定です。

また、平成最後の大同窓会が平成30年10月6日に昭和58年卒の当番幹事の皆様により「ALL MEIZEN」時は過ぎても続く友情」のテーマのもと開催されました。第51回という新たな出発への節目の大同窓会で、多くの来賓の皆様、恩師の先生方、関東支部を始め、多くの同窓の方々のご出席をいただき、盛大に開催することができました。台風の影響もあり、開催も危ぶまれ皆様方には大変御迷惑をおかけしましたが、兵頭充紀実行委員長を始め当番幹事の皆様方のご努力のおかげもあり無事に開催でき、誠にありがとうございました。

永年に渡り明善同窓会長として御尽力なされ、多くの御功績をあげられた眞木大樹会長の後を私が引き継ぐことが平成30年6月の明善同窓会代議員総会で承認され、その重責を改めて感じております。私は昭和50

年に明善高等学校を卒業し、平成22年に明善大同窓会の当番幹事を担当して実行委員長を務めさせていただきました。当番幹事の約3年前から同級生で定期的に集まり、中には30年以上ぶりに会う友人もいましたが、会う度に明善高等学校時代の思い出話に盛り上がり、青春時代を共有することができ、高校時代の友は一生の宝であることを改めて実感しました。また、明善大同窓会の先輩・後輩の絆や母校愛の強さも大同窓会を通して確認することができました。平成22年の明善関東支部同窓会に初めて参加させていただき、とても歓迎していただいたことが思い出されます。

ところで、私は現在久留米大学医学部神経精神医学講座に勤務しております。平成17年の明善高校の午睡(昼寝)タイム導入に関わって以降、毎年4月には新入生向けに「睡眠の心身への影響」について講演の場をいただき、また、明善高校「心の相談」を当講座が担当していることもあり、「地理的な距離」以上に「心の距離」の近さを実感しています。

平成31年には創立140年を迎え、母校明善高校も新しい時代へと進んでいきます。今後は会長として明善同窓会および明善高校の更なる発展に少しでも寄与出来るよう励んで参る所存です。至らない点も多々あるうかと存じますが、会長を始め同窓会関東支部の役員の皆様、会員の皆様には引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健勝をお祈り申し上げます。

「第52回 明善大同窓会」開催にあたって

第52回実行委員長 昭和59年卒 田中久雄

- 日時 2019年10月12日(土) 14時30分開始予定
- 場所 ホテルマリタール創世 久留米市東櫛原町900
- テーマ 「逢いに逢う」友に 母校にあの頃の自分に」
- 会費 6,000円

明善同窓会・関東支部の皆さん、こんにちは。今年の大同窓会は、私たち明善59会が担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年の大同窓会での「当番幹事委嘱状伝達式」の際にも触れましたが、今年10月、明善高校は創立140周年を迎えます(ちなみに、12月には久留米高女での「久留米初の『第九』披露」から100年になるそうです)。さらに、5月には改元されるなど、時代の節目を感じる年に幹事を務めさせていただきます。ただ、そのことを、実行委員一同、大変光栄に存じています。そして伝達式の壇上、私たちは「逢いに逢う」友に母校にあの頃の自分に」をテーマに掲げました。あの頃を一緒に過ごした友と久しぶりに逢い、屈託のない会話の花を咲かせる。そのひとときを皆さんの「明日への元気」にしたいだけだから。私たちの大同窓会への想いを込めたスローガンです。

遠方からになりますが、関東支部の皆さんからも、一人でも多くのご来場を心よりお待ちしております。なお、今年5月の関東支部総会の際には、実行委員会メンバーと共に改めてご挨拶に上がらせていただく予定です。併せてよろしくお願ひ申し上げます。

＊母校明善特集＊

明善スーパーサイエンス・ハイスクール

昭和45年卒 正木春彦（東京大学名誉教授）

2011年中頃、明善の先生から、文科省関連の科学技術振興機構（JST）のスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）事業に応募したいと、ご相談があった。SSHは、2002年から始まった全国の高校の科学技術人材育成事業。計画が評価された少数の意欲的高校に、重点的に補助金を交付する理数系教育の振興事業で、最初は3年間で次から5年単位の事業になった。そもそも日本の公教育予算は先進国中では著しく低く、20年ほど前、都立高の先生から高校当り理科の年間消耗品予算は約100万円と聞いたことがある。1つのSSH事業は、近年減ってきたがそれでも一千万円近くを5年間交付されるので大予算である。現在約200校が指定されている。

さて、2012年度から5年間、明善の理数科がSSHの指定を受け、私は運営指導委員という外部委員になった。先輩の空閑重信氏（ちくぎん地域経済研究所）とも一緒。そして2017年度からは第2期の5年間が始まり、理数科から全日制全科の事業へと広がった。1高校にとっては大きな出来事なので、いろんな面があつて偏りなく書くのは難しい。成果は明善高校のHPを見て頂きたいが、別の角度からここでは2、3点。

大型予算は幸運に違いないが、補助金事業の常として共通理念が明確な訳ではなく、どう賢く利用するかが重要である。主役は毎年入学してくる生徒のはずだが、実際に事業を廻すのは教師で、JSTは陰に陽に目につく成果と報告を要求してくるので、SSH担当の主任教師の負担は大きい。私は1期目の最初に、5年間を有効に活用して明善の教育力を上げることが期待し、それは2期目も変わらない。しかし5年前と違って教師は、色々な責任の範囲が広がって多忙となっており、予算があれば教育力を向上できることなのかどうか。各種コンテストへの応募、内外の研究発表会、MITを含め海外や、東大、京大、筑波大への生徒の研修旅行、周りから期待される有名大学の合格率、そして報告書を含めたJSTへの対応。担当教員にストレスが集中し、肝心の全校的教育力の向上、あるいは2期、3期と継続する気力が生まれるのか心配なところがある。

物理や化学や生物の名を冠したオリンピッククなどの

高校生科学コンテストが盛んで、その運営側の尽力は並大抵ではない。またいろいろな学会でも、若い世代へのアピールとして高校生研究発表会を用意している。発表会は励ましにはなるが、個人的には問題点もいくつか感じている。活動が発表中心となり、ことにJSTが英語を推奨するので英語のプレゼンは上手になるが、高校生ならでこそ、キラリと光る原石の巧みな育成がどのくらいできるかが問題。学会の対応も正直言つて宣伝に本音があり、責任を持つて学問的評価をしないまま賞を乱発する傾向がある。結果的に、受けのよい発表を場所を替えて何度もやることもあるが、それは研究倫理的にはありえないことで、研究としては認めていないことを示唆する。明善のことではないが、賞を獲得して皆から賞賛されることがサイエンスだと勘違いする子も出てくる。理科好きだった高校持代の私であれば、そのような環境は厭になつて理科嫌いになつていたかもしれない。夏の全国SSH発表大会で、ポスターの前の生徒に聞くと、部活でも新入生が来ない悩みなど、コアになるべき授業や部活が後回しになつている現状も垣間見える。

高校の理科とサイエンスの間のギャップは大きく、大学で科学研究がすぐに待ち構えているわけではない。高校の理科教師は、多忙さの中で研究現場との繋がりが乏しく、サイエンスの芽をどうやって発掘し伸ばすか一番悩んでいるはずである。その意味で大学研究室との連携は重要であるが、大学ならどこでもよい訳ではなく、つまらぬ研究のデータ集めに利用される可能性もある。久留米、福岡、北九州にはたくさん大学や研究機関がある。忙しい現場の研究室でなくても、第一線を退いた科学者・企業研究者は潜在的にたくさん居る。インターネット経由なら近くである必要もない。高校生の時間は限られているので（年限としても、授業が45分単位だという意味でも）、連携にも賢さが必要だが、明善の同窓生が何とかして協力できないだろうか？ただし、生徒と繋ぐのはあくまで現場教師であり、現状で教師にこれ以上仕事を増やせる余地はなく、勝手に押しかけるのは有難迷惑だろうが、研究発表会の野次馬程度なら歓迎されるはず。そういう応援団にも何かの組織的工夫は欲しい、同窓生のお知恵・お力が拝借できればと思う次第である。

以下は本年1月25日のSSH発表会／運営指導委員会で聞いた朗報です。化学部の「馬鈴薯澱粉の酸加水分解に伴うヨウ素呈色反応の不思議な色変化の発見」が、高校生科学技術チャレンジで次席に当たる花王賞を獲得し、アリゾナでのインテル国際学生科学技術フェアに日本代表で出るという。古典的実験なのに誰も

気づかなかった現象を発見したことに私も以前から注目していたが、まだ答えに届いていない。SSHは私から見ると問題を抱えながらも、明善の生徒は確かに進んでいる。なお理数科ではなく普通科の生徒による研究発表会が、明善体育館で3月19日午後、久留米シティプラザで5月21日午後に予定されています。平日ですが野次馬応援団はどうぞ駆けつけましょう。ウェルカムとのことですよ！

明善高生大学訪問研修に参加して

平成元年卒 原 長亮

今回の明善高生の大学訪問研修は、7月29日～31日の2泊3日で行われました。

現役生の皆さんは、初日、久留米から移動した後、各自で大学を訪問したそうです。2日目の午前中に私たち関東支部メンバーとの懇談を終えると、午後は東京大学を訪問、その日のうちに京都へ移動して、3日目は京都大学を訪問して帰路につくとのことでした。若人ならではの強行スケジュールに驚くとともに、出来るだけ多くのことを吸収しようとする現役生の皆さんの真剣さ、引率の先生方の熱意を強く感じました。

さて、今回上京した現役生は、理数科・普通科総文の1年生で、男女約30名でした。一方、私たち関東支部は、伊東美晃「学生の会」委員長（S55卒）以下、8名のメンバーがパネルディスカッション形式で現役生と懇談しました。私たちも様々な問いかけにいろいろな角度から答えたいと考え、高校卒業間もない大学生や普通のサラリーマンは勿論、若くして、あるいは長年会社勤務を経て起業した人、留学して今は大学教官など、年齢・経歴・性別の異なる同窓生が集まりました。遠路わざわざ京都から駆けつけてくれた大学生も加わってくれました。

実は、始まる前は、どんな話で切り出せば良いか、全く反応がなかったらどうやって盛り上げようかと心配していました。ところが、それはあっさり杞憂に終わりました。まず、最前列に座っていた女子生徒がどうやったら留学できるのかといった主旨の質問をしてくれたのを皮切りに、積極的に自分の好奇心や夢と、それを考えた時に分からないことや不安なことを次々とぶつけてくれましたので、私たちも答え甲斐がありました。男子生徒は恥ずかしがり屋が多かったのか、終始、女子生徒がディスカッションを引っ張ってくれる、今どきの高校生の姿も垣間見えて、とても微笑ましく思えました。

そして、一番驚いたのは、最後の生徒代表のお礼の挨拶でした。私たち社会人でも緊張する場面では、原

稿を準備したり、定型の挨拶で無難に済ませたりするのですが、後輩は違いました。直前までのディスカッションの内容や自分が感じたことを話しながら、自分の言葉で感謝の気持ち伝えてくれました。



今回の懇談の場全体を通じて、私たちの後輩がみな大変頼もしく、将来有望な若者であることが報告できることを大変うれしく思います。

「白旆の歌」の由来

昭和53年卒 山寄信明

1923年の秋、中学明善3年生だった藤吉繁吉（16）が、旧制第七高等学校造士館（現・鹿児島大学）の寮歌「北辰斜に」の曲にのせて作詞した。明善野球部OBで、『白旆の歌』を歌う際に音頭をとられている土肥義政先輩によれば、「明善野球部を秋の九州大会へ国鉄久留米駅から送り出すときに作られたもので、もともとは野球部の応援歌」だという。

詩の内容は肥後の武将で、九州の南朝側の重鎮でもあった菊池武光と、1359年の筑後川の戦い（大保原の戦い、大原合戦）になぞらえて士気を鼓舞する歌。菊池は懷良親王（後醍醐天皇の皇子で征西將軍）を君主としていただき、4万人の兵で筑後川南岸の高良山に布陣。一方、大宰府を本拠とする北朝の足利軍は北岸の味坂に6万の兵を配置して対峙し、8月6日（正平14年）に大保原で一大決戦となった。

戦いは両軍合わせて4800人余りが討ち死にするほど、壮絶さを極めた。北朝側が敗れ、大宰府まで退却するに至った。当時、全国的にはすでに北朝の勢力が上回っていたが、九州だけは南朝勢力がしばらく続く。

かたや勝利を収めた南朝の菊池軍だが、懷良親王や菊池自身も大きなダメージを受けたため、追撃を諦めていったん帰途に就いている。懷良親王が布陣した場所が、名をそのままとった宮ノ陣。「宮ノ陣神社」は親王を祭った神社で、みずからが植えたとされる、歌詞にも出てくる市内最大級の「將軍梅」がいまも存在する。

さらに、負傷した菊池が太刀を洗った場所が太刀洗（現・三井郡大刀洗町）。戦場周辺には大將塚、千人塚、將軍藤、大保など戦いに由来する地名や史跡が数多く残っている。菊池は1373年に高良山攻防戦で戦死。南北朝が合体して終焉するのは、1392年のことだった。

◆昭和47年卒特集◆

◆明善同志47会「金沢・北陸 緑寿旅行」

昭和47年卒 坂田一男

2018年6月3日、古希まで待てない「緑寿旅行」がスタートした。久留米組7時27分快速に乗る。博多組と8時10分頃合流。博多駅ホームでは西尾(小林)豊子さんが垂れ幕を作って見送ってくれた。(感謝)車内では発車と同時に酒盛りとなった。11時すぎには「一升瓶が空いた!」とメールが入った。

東京組も無事に名古屋へ。私は指令により名古屋駅で名古屋名物・冷えた缶ビールを買って求めた。

名古屋駅・銀の時計前で全員集合。懐かしい友と再会した。丹治実行委員長の旅行スタートの挨拶。昼食はバス車内で天むす弁当です。

1日目「合掌造りの飛騨の里」↓「三町・伝統的建造物群保存地区 高山散策」↓「高山泊 大宴会」

2日目「萩町城址展望台より白川郷の合掌造りを眺める」↓「金沢市内、ひがし茶屋街、近江市場(昼食)、兼六園散策」↓「山代温泉泊 大宴会(メインイベント)」

3日目「東尋坊」↓「永平寺」↓「月うさぎの里で昼食 後名古屋へ」

2日目夜「1

100年続く山代温泉の菖蒲湯祭り」旅行の日程が偶然にも伝統ある菖蒲湯祭りと重なったことで、この日女子にだけ好きな浴衣を着られるという特別サービスがあったり、珍しいお祭りをみる事ができたりして、とてもラッキーだったと思います。

旅行中お天気にも恵まれた事も含め、皆さまの日頃の心掛けの良さのおかげかな?

◆同志47会 緑寿旅行アルバムに寄せて

昭和47年卒 森 誠

同志47会の各種印刷物を改めて見てみました。パンフレット「第40回明善大同窓会のすべて」によります



萩町城址展望台より白川郷の合掌造りを眺める

と、私たちは1969年4月7日に明善高校に入学し、1972年3月7日に卒業しています。17、18歳の多感で不安定な青春時代を明善で謳歌し、過ごした訳です。



萩町城址展望台にて

卒業後、1985年1月3日に第1回同期会を開催して「同志47会」(どうしよんな?会)を発足させた時に、故・大坪純一君は「いづれ我々が大同窓会のお世話をしなければならぬ時が来ると、覚悟を決めた」と「みんなどうしよんな?創刊号」に記しています。実行委員会メンバーは幾度も打ち合わせや会議・会合を重ねてついに、2007年10月7日に第40回明善大同窓会を担当幹事として立派に成功させることが出来ました。この時の年齢は53、54歳で、卒業から35年が経っていました。

その後、各地では折々に数多くの「こじんまり会」が催され、私達の絆は益々強く結ばれて来りました。2014年5月18日、20日には、還暦を迎えられたことに感謝して「お伊勢参りの旅」60歳の修学旅行」を開催し、今回は2018年6月3日、5日に「金沢・北陸緑寿旅行」を企画し無事に開催出来ました。卒業から何と46年が経っています、驚きです。

大学や社会人になってきたいろいろな友人達も勿論大切にけれど、その人たちは一味違う級友達、それが同志47会のメンバーなんです。仕事の取引関係がある訳でも無く、いつもかつも、つるんでいる訳でも無く(あら!ご夫婦になられている方々は例外ですね)、話を聞いて欲しくなったり、ちょっとした飲みもうやと思ったり、どうしよんな?と



兼六園にて

気になった時に、集まってくれる級友達が傍に居てくれることに、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。

今回は、様々な事情で会えなかった「友」とは、次の旅行では笑顔でお会いしたいものです。



山代温泉大宴会

◆奇跡の38名!

昭和47年卒 渡邊(小川)慶子

緑寿記念旅行から10日経ちましたが、お土産を配ったり自分も食べたり、スマホの写真を見たりして、まだ旅行の余韻に浸っています。丹治君、戸嶋ちゃん、森君、坂田君を始め幹事の皆さん方には大変お世話になりました。

私達のグループは4人で申し込んでいたのですが急な家庭の事情で2人キャンセルになりました。博子さんと2人になり部屋割が気になっていたのですが、戸嶋ちゃんと久保ちゃんが来てくれて楽しい時間を過ごす事ができました。戸嶋ちゃん久保ちゃんありがとう。



山代温泉浴衣姿で満悦

2日目の旅館は、リビングの様なスペースも有りととても素敵な部屋でしたし、貸出の浴衣を着て皆で出掛けたのも良い思い出です。勿論白川郷や東尋坊、永平寺等の名所旧跡も素晴らしいかったです。この旅行で色々な方々と触れ合い、お話出来たのが、何よりも良かった事です。

東京組の方々が予定の新幹線に間に合わなかったり(バスが間に合わせようとして凄いいスピードを出すので怖かった)博多組の新幹線が倒木の影響で暫く止まったり(一時は夜中に着くかもと覚悟したり)と最後にハプニングも有りましたが、今では良い思い出ですね。

1日目の宴会のスピーチで私は「テニスで膝を痛めて歩くのが遅くなる、テニスもやめなきゃいけないのかも」と等と嘆いていたのですが、2日目の宴会スピーチで、大病と闘いながら参加し、その上、旅行のお世話係までされている方々のお話を聞いて、膝痛でテニスが出来ない位で大騒ぎしていた自分がとても恥ずかしくなりました。

今更ながら、年齢を重ねるごとに仕事や家庭の事情、病気等、皆色々な事が出てくる中で、この38名が各地から集い、明善47会の緑寿記念旅行に参加出来た事は、奇跡の様なとても素晴らしい事だったのだとつくづく思います。充分ではない体調を押して参加さ



誕生月毎に「今、熱中している事」

れた方々が、旅行後、日常を健やかに過ごされている事を祈っています。

また、私は膝痛の関係で旅行中に博子さんに荷物を持って貰ったり、出田君に「帰ったら直ぐに病院に行かんね」と度々声をかけて頂いたり、その他沢山の皆さんにご心配をおかけしたりお声を掛けて頂きました。お陰様で膝痛もだいぶ良くなりました。テニスもぼちぼち再開しています。まだまだ若いと思っていましたが、これからは年齢を考えて、無理せず生き甲斐であるテニスを楽しみたいと思います。

次回の旅行も、また皆さん方と楽しく参加したいと思えます。またその時にお会いしましょう。

◆楽しかった緑寿旅行

昭和47年卒 諸藤(五十嵐)恵美子

今回の旅行は、腰や心臓に不安があり、参加を悩みました。でも行って良かった! 最近20年間の出来事は、あまり記憶にないのに、友達の顔を見たたん、約50年も前の出来事が鮮明に、というと言いつつ過ぎますが、蘇ってきました。

名古屋で集合、「○○ちゃん、久しぶり。元気にしとったね」「えっ、○○君ね、わからんやつた」といつのまにか久留米弁に(笑)観光バスで飛騨高山(金沢)と2泊3日の旅です。

ガイドさんには申し訳ないけど、観光の説明より、友達とのおしゃべりに花が咲き、休憩の集合時間を忘れて「ねえ、集合時間何時やつた?」「そういえば、何時やつた?」とお互いにならうわの空。

2日目の山代温泉では、好きな浴衣を着て、皆んなでお祭りに行きました。菖蒲の俵の神輿を引き回し、最後に温泉に入るといって初めて見るお祭りです。浴衣を着て、お祭りを見るなんて考えてもいなかったのに、楽しくてワクワクドキドキの時間でした。その後、湯に浸かった菖蒲をもらって帰り、家のお風呂に入れて一年の無病息災を願いました。

次回も参加出来るように、暴飲暴食減らして、体調管理に気をつけます。



永平寺



東尋坊にて

明善28東京会の設立・総会及び親睦会思い出

昭和28年卒 飛永信雄

昭和43年ごろ、小田急線の生田駅近くの団地に住み始めた時、同級生の寺崎泰夫君（寺崎昌男氏（26年卒）の弟）のお母さんから、その団地には、同級生の柴田（旧姓伊勢）禎子さんがお住まいですと言われました。団地名簿を見たら柴田さんのお名前がありお会いしました。日吉小学校、明善高校等共通の話題が広がり、古賀（堀）正浩君、女性（テニス仲間「内田（久富）稔子、佐伯（庄野）匡子」さんらとは今でも親しくお付き合いされているとのことでした。

関東在住の28年同窓会をやりますかと話が進み、古賀正浩君らが中心となり、第1回の28年同窓会・総会・親睦会を学士会館で昭和48年7月、参加者数34名で開催しました。それ以来、毎年同窓会を開くこととなり、友情を温めております。最近、芥川哲士君らのお世話で、ホテル・グランドヒル市ヶ谷で同窓会を開催。青春の明善高校時代の思い出・写真等を見ながら花を咲かせています。加齢とともに健康寿命は、大きな関心事です。日本人の健康寿命は、男性「76歳、女性「74歳。健康寿命とは、生活習慣病等の慢性疾患があっても、要介護状態にならず、自由に外出ができ、自立した生活が送れる状態。健康寿命を延長するには、足、腰、肩等の筋肉鍛えるための運動、血液の正常な流れ、脳細胞に刺激を与える読書、人との会話等が大切、また栄養バランスに配慮した生活も大

くるめつじ会からのお知らせ

「くるめつじ会」とは、久留米市にゆかりのある在京の方々の親睦会です。毎年、総会・懇親会を開催し約150人が参加されます。

20回目となる今年は、次のとおり開催を予定。皆様のご参加をお待ちしております。

○日時 10月16日（水）18時～（予定）

○場所 アルカディア市ヶ谷

また、地元久留米のトピックスやイベントなど様々な情報を「くるめつじ会メール」として配信しております。ご興味のある方は、メール、お電話にてご登録ください。

《連絡先》

くるめつじ会事務局（久留米市東京事務所内）

☎03-3556-6900

E-mail: tokyo@city.kurume.fukuoka.jp

事だといわれています。「東京オリンピックまでは元気でね」次回の明善28東京会でまたお会いしましょう。

東京ブライテッド

昭和41年卒 テッド ファウラー

東京・山手の木々が色づいた昨年晩秋、ひよんなことから本駒込を中心とした、文京区主催の史跡めぐりに参加させてもらった。寺社や家並み、路地裏など、見どころの背景をなした榎紅葉、銀杏黄葉が殊の外鮮やかで、これぞ東京ならではの風景と、感心した次第。その後、今度は自分なりの「変奏曲」を試みながら何回か、同じ地域を繰り返し歩きまわることが、時代のテンパイとでもいうべき平成30年、私の滞日中の一

番の思い出になった。昭和39年夏、明善高校に留学したのがきっかけで日本との縁ができた私は、ここ十数年、毎年秋を東京で過ごしている関係で、同期の明善「よいかい」のグループもご案内することに。

参加メンバーの年齢は私と同様、古稀＋アルファ、各氏は健脚と自負しながらもやはり、強行軍は禁物。文京区主催のツアーはやや散漫で、もっと引き締まった企画にせねばと、改めて下見に出掛けた。下見の無駄足は本番の町歩きをより快適にするものと、一万歩未満のコースを目指し、体を張って二万歩強、本駒込五、千駄木一、向丘二丁目の、見学すべきスポットに足を運んで確認した。

当日、午前10時に地下鉄南北線・本駒込駅で集合。本郷通り（旧岩槻街道）を渡って目赤不動（南谷寺）でちょっとお参りし、東大下水（東大にあらず、ひがし・おおげすい）跡に沿って「箱根八里」の作詞家であった鳥居枕（まこと）の墓がある江岸寺へ。再び本郷通りを渡って火消しの信仰が深い富士神社、都史跡の駒込名主屋敷、参道の厳かな天祖神社、二宮尊徳、榎本武揚、川上眉山、そして、鵬外こと森林太郎の遺言を口述筆記したという賀古鶴所（つるど）の墓がある吉祥寺に赴き、区の施設・駒込地域センターで一服してから儒学者の安井息軒、「明六雑誌」の西村茂樹、そして、なんと『坊っちゃん』の女中・清のモデルが眠る養源寺、漱石の「猫の家」跡、雲龍型の土俵入りで名高い柳川出身の横綱・雲龍久吉が眠る海蔵寺など、申し訳ないくらい



▲吉祥寺にて

の急ぎ足でまわった。

最後は本郷通りに戻り、午後一時近く解散したのだが、歩数計をみればいかにせん、はるか二万歩を突破。下見の無駄足は、二万歩強でも足りなかったかと、後悔したのがもう後の祭。

それにしても、駒込地域センターをはじめ、お寺の境内など高齢者に嬉しい公衆トイレの多いことに感動した――いや、大変お世話になりました！

自分で言うのが何だけれども、町歩きの醍醐味を満喫したつもり、この次は古稀＋アルファにベータまでついてしまうけれども、老体に鞭打ってまた挑戦する所存である。皆さんは如何？

古希記念学年旅行―京都奈良へ―

昭和42年卒 鳥越素子

10年前に還暦記念として企画されたのに、新型インフルエンザが京都でも発生したために中止となった。きさつがあり、今回はリベンジとして、京都奈良古希旅行が計画されました。西と東からの同期生が京都で合流して観光バスで東福寺へ、京都着が20分遅れたせいもあり、やや慌ただしく見学することになりました。続いて銀閣寺、と金閣寺。

古希の私たちには、わびさびの世界も好ましく、山、坂ありの庭園歩きは足元に注意を払う必要もあり、皆さん古希を実感されたかもしれません。奈良ロイヤルホテル到着後19時から宴会、卒業以来の友40名余りが近況報告、半世紀の出来事をスピーチ、簡単に名前だけの友もあり、とても時間が足りないのが残念でした。そのあとはカラオケ、高校三年生は定番です。

翌日は奈良観光へ、落慶法要があったばかりの興福寺金堂が一般公開されており、加えて阿修羅像などの国宝の数々を直に見ることが出来て感動し、大仏に会い、しつとりと静かなたたずまいの唐招提寺では鑑真和上の偉業をしのびました。お昼は、柿の葉寿司御膳でした。

今回は車椅子を使って、かつての級友が代わる代わる押すというシーンもあり、ガイドさんのサポートもあって、楽しんでいただけたと思います。京都駅にて解散、東京勢は満月の美しい月を追いかけて東へ、家路をたどりました。JR東海のCM「うましうるわし奈良」をみては、あの日



明善69会の東京忘年会

昭和44年卒 山浦良久

今年の明善69会の東京忘年会は、12月2日に新橋第一ホテルで行いました。地下鉄の日比谷駅から帝国ホテル、鹿鳴館跡地にあるNBF日比谷ビル、みずほ銀行本店前を通りホテルに到着。東京ではこの時期の午後5時というとすっかり真つ暗になっています。

幹事の池尻さんの尽力で、3時間飲み放題、シャンパン付きの好条件で確保できた新橋第一ホテルのラウンジ21に、男性14名、女性6名の計20名が集いました。遠方の名古屋、静岡からいつも参加して頂いている徳山さん、前田君も駆けつけてくれました。今年亡くなった澤君、弟子丸さんに関する半田君のものの悲しい思い出紹介のあと、シャンパンで献杯をして始めました。

ホテルの洋風のオードブル、サラダ、料理などを楽しみ、周りの人と話を楽しましましたが、海外出張が多く久しぶりに出席した島田君に近況を聞いたところ、先週ドバイにいったとのこと。ドバイは映画のミッション・インポッシブルで見ましたが、5層のハイウェイが走る未来都市のようなところらしいです。また、口ヒゲ、顎ヒゲをはやした山口君は、服装も含めてきまっていました。出席された方々の顔を見ているだけで、元気に暮らしているんだと、なんとなく納得してしまします。

高校を卒業して丁度50年になります。中学卒業後間もなく事故で死んだ友人もいますので、ここまで生かしてもらって感謝です。人生もだんだん終盤に近づいているのは紛れもない事実ですが、インターネッ



大同窓会に初参加して

昭和44年卒 中野英幸

夜街のイルミネーションが増え始めた12月2日に69会忘年会が開催されました。私がこの会に参加するようになったのは半田君から案内をもらい、この会の存在を知ってから2010年7月からです。初めて品

川のレストランで参加した時、半田君に加え舟木君と大橋君が「中野君だね」と声をかけてくれて、嬉しかったのを覚えています。それ以来、旅行イベント以外はほとんど毎回参加しています。毎回、話題は様々で、同世代ならではの関心事なので面白く楽しいです。いつもよく出る話題は病気と健康ですが貴重な情報源となっています。

今年は明善大同窓会に初めて出席しました。以前から一度は出席して見たいと思っており、来年、出席予定でした。最近、体力も落ちてきてだんだん旅行が苦痛に感じるようになったのと、このところ頻繁に発生する災害を見ていると来年も何が起きるか分からないので早いうちに行っておいた方がよいのではと思い、今年に繰り上げて、決行しました。

案の定、台風26号の接近で開催が危ぶまれましたが幸いコースが逸れて中止とならずに良かったのです。ただ、一部の方は交通機関の運転見合わせで来れなかったようです。前夜に明善高嶺原中仲間との集い、そして当日の69会、二次会、三次会と夜遅くまでのあっという間に過ぎた2日間でした。初めての私にとつては大同窓会は想像以上のものがありました。マイクロボスでの送迎、会場入口での卒業生女性陣による琴演奏歓迎、バイオリンと琴の協演、応援団による力あふれる演舞など至れり尽せりのおもてなしに感激しました。久しぶりに旧友に出会えることができました。互いに変わってしまった容貌に内心驚きながらもそういえばこんな感じの人だったなと改めて昔を思い出しました。この人がこんな職業にと、学生時には想像もつかないギャップと隠れた才能に感心することしきりです。収穫が多かった同窓会でした。

忘年会は洒落たコース料理とシャンパン、ワインなどを味わいながらわいわいやっているうちに3時間があつと言う間に過ぎてしまいました。この頃はスマホ所持者が増え、写真などを見せ合って語る光景が見られるようになり、時代も変わったなあという感があります。写真を使って語れば「百聞は一見にしかず」で説得力がありますね。私のLINEの友だちも周りの人とフルフルをやって増えました。歓談の合間にホテルのロビーで集合写真を撮ってもらいました。全員集合の写真が撮れるのも広いロビーが使えることで、各自、持参のカメラを差し出してホテルの人をお願いしてシャッターを押してもらいました。カメラの台数がそこそこあったのでシャッター回数は半端ではなかったのですが快く対応して頂いたホテルの人に感謝です。最後は来年も元気でまた会おうと声を掛け合って散会となりました。

関東51会を開催して

昭和51年卒 波多江真一

今年も関東51会を11月17日(土) 12時から開催しました。今年の1次会は、新橋駅から3分ほどの第一ホテルのレストラン「エトワール」。今年は、1次会参加者23名、2次会16名の参加となりました。2次会には新橋のライオン、ここもホテルから歩いて2分ほど。1次会は、12時から15時まで。予定通り12時に、乾杯に始まり、いよいよ、皆さんすでにビールで事前に乾杯の練習完了済み。その勢いで盛大に乾杯。レストランは、ビュフェスタイル。お酒は飲み放題となれば、皆さん、食事にお酒に、さらにおしゃべりにと、拍車がかかります。今年は、女子幹事の提案で、席はくじ引きで、ランダムに座っていただき、宴会の半ばにくじ引きで席替えしシャッフルしました。宴会の半ばとなれば、参加者みなさん自身もお酒も回ってきたみたいでシャッフル状態の人もぼちぼちでしたが、後半もみなさんわいわいがやがやで、懐かしい話やあしたからの話、孫、健康などなど、交流を深めて楽しそうです。そろそろ宴もたけなわとなり、これまた女子幹事のアイデアで、久留米のアンテナショップで女子が用意してくれた名産品を、テーブルごとにくじ引きで選んでもらってお土産にしてもらいました。ハズレなしです。名産品はいろいろで、懐かしさもさらにひとしお。最後に、来年の幹事を大井君、大塚君、女子は健木さんと鐘ヶ江さんをお願いし、日時も11月16日(土)と決定したところで、1次会はお開きとなり、2次会に流れていきました。

2次会も、ライオンでみなさんライオン並みにほえるほえる！さらにお酒もどんどんすすみ、いつのまにかまわりはすでに真っ暗で、2次会もお開きとなりました。そのあと、三々五々、名残つかずに3次会などにながれていた人もいたようです。

来年皆さん元気で、笑顔でお会いできることをこころから祈っております。



還暦祝いの伊勢参り
―新たな時代、新たなステージへのリフレッシュ―

昭和51年卒 山下幸男
関東51会の有志は九州の有志と合同で、昨年5月に還暦祝いの伊勢参りを行った。計画から実施まで5か

月という短い中で催行可能かどうか心配したが、九州と関東からほぼ同数、男女もほぼ同数が名古屋駅に集合し、大型観光バス1台に丁度良い具合の参加であった。伊勢への途中、味噌煮込みうどんの昼食を取り、二見興玉神社にお参りして、夫婦岩を見学した。家庭のある者、伴侶を亡くした者、独り身を謳歌している者など、各々がそれなりの思いを抱いたと思う。思いと言え、立ち寄り先にいた親子のオットセイが印象深かった。女性達は親子3匹に家族愛を感じたようだった。退職直後の筆者には大きな体を横たえてただ寝そべっているだけのように見える雄オットセイの姿が自分と重なり多少複雑な思いで見えていた。

その後、鳥羽温泉郷安楽島の宿泊施設に入り、一風呂浴び、全員が赤いチャンチャンコを纏って懇親会に臨んだ。関東51会では人の話を聞かない場面も散見されるが、各自の近況報告に神妙に耳を傾ける様はある意味意外だった。もちろん、話題の多くが健康状態や介護問題などだったこと言うまでもない。各部屋でのまくら投げや痛飲も心配したが、還暦を迎えただけのこととはあって、混乱もなくむしろ穏やかで楽しい時間を夜遅くまで共有できた。

翌日は、早い時間から内宮、外宮を参拝した。ガイドさんに来歴などを聞き感心したが、すぐさま忘れた。ただ「伊勢神宮はお願いの場所ではなく感謝の場所だ」と言われたのが心に響いた。旧友と伊勢参拝が出来た喜びやその旅行に快く送り出してくれた家族に感謝し、今後の健康と幸福を祈った。お願い事ではなく、あくまでも祈りを捧げたに過ぎないところがミソである。

参拝の後には、おかげ横丁を散策した。啍酒する者、赤福かき氷を食べる者、お土産を購入する者など修学旅行以来の旧友と散策を大いに楽しめた。最後に、大アナゴ天ぷらや地元の豆腐などでお腹を満たした。さすがに名古屋屋に向かうバスの中は夢うつつの休憩時間であったが、名古屋駅で再会を誓い会い、笑顔でそれぞれの家路に就いた。

平成も終わりを近づけるところ、我々も還暦を超えたが、元氣な諸先輩を見習い、後輩には負けないよう、意気軒昂に新たな時代、新たなステージを迎えたい。40数年の時を経て旧友が集えた伊勢参りは、その節目のリフレッシュとしてとても有意義な還暦祝であった。



ドイツ紀行

昭和52年卒 船橋政裕

勤めている会社が、新幹線始め鉄道の運転訓練用シミュレーターを作っている関係から、先日、イノトランスというドイツの鉄道展示会に出張してきました。鉄道では世界最大規模の展示会で、中国、フランス他各国の巨大企業の展示が並んでおり、我が国もJRや車両メーカーが展示していました。この出張で驚いたのが、ドイツの交通事情です。初めて知ったのですが、ベルリンの鉄道には、改札が無いのです。住民は、定期券的なチケットを保有しているようで、ほとんどの人が乗車時に切符を買いません(ホームに切符の自動販売機がありました)。海外などからの旅行者は、ホテルのフロントで、定期券のようなパスをくれます(ホテル代や展示会入場券等にある一定の交通費が含まれているようです)。駅舎や商店街から階段やエスカレーターで移動すると、そのまま電車のホームに出ます。誰も何も確認しません(稀に抜き打ち検査があるようで、無賃乗車には60ユーロの罰金)。これが社会規範になっているようで、ドイツ人の極めて合理的な考え方で出来上がったシステムです。

メルケルさんが移民受け入れに積極的なことに對し、ドイツ国民が猛反対した背景が、こういう所にあるのだなと思つた次第です。移民が大量流入してしまつたら、無賃乗車が横行してしまうかもしれません。電車に限らず、このシステムは、路面電車、バスにも適応されていて、我々旅行者もフリーパスで公共交通機関を利用できました。ある意味、改札というインフラ投資も、その運用も不要な、極めて効率のよい社会インフラだと感心しました。色々な面で、ドイツの国民性を体感した海外出張となりました。



台風直撃、その時飛行機は！

昭和61年卒 中野義友

能古島と海の中道が見えてきた、最後に海の中道をドライブしたのはいつだったろう。福岡は市街地と海と島のバランスが絶妙だ。空から眺めるとそう実感する。お、福岡タワー、初めて登った時に一緒だったあいつとはあれ以来会ってないなあ。2018年10月6日、私は、高校の大同窓会に参加すべく東京（羽田）を出て福岡空港へ着くところであった。福岡はあいにく台風が直撃していたものの、早朝便で先発していた同期は、無事に着いたと聞いている。確かに揺れはきついが、もう都市高速の上空を超え、滑走路は目前だ。ヤレヤレ、西鉄大牟田線は運転見合わせらしいので、高速バスかJRか。「……」突然激しいGを感じる。と飛行機は猛烈な勢いで急上昇を始めた。「強風でシステム警報が鳴動したためいったん着陸を回避しました。」と機長からアナウンス。おいおい着陸寸前だったじゃないか、マジかよ。機体は大きく旋回を始めた。10分ほど大回りして、再び飛行機は着陸態勢に入った。さて、揺れはあるが今度は大丈夫、少し遅れたがギリ間に合うだろう。「……」突然激しいGを感じると飛行機は猛烈な勢いで再び急上昇を始めた。「強風で安全速度の維持が不可能と判断しました。当機は羽田空港に引き返します。」と機長から上ずった声でアナウンス。「……」

トップガンのトムクルーズばりの急上昇を2回も体験できたが、それで満足するはずもなく、羽田空港に着いてすぐ振替便の列に並んだ時刻は、14時9分。福岡着18・55便が手配され、久留米に着いたのは20時過ぎ。ああ、楽しみは明日の同期ゴルフくらいかとダメモトで連絡してみると、同期会が寛永通宝でまだ続いているとのこと。ダッシュでスーツケースを引っ張り一番街を滑走し、松竹会館に向かった。会も終盤ではあったが、高校卒業以来の懐かしい面々と再会することが出来た。本当に嬉しかった。羽田―福岡を無駄に往復したが、戻ってきてよかった。とても良い時間を過ごせた。本当に一瞬でタイムスリップするものだ。同窓会、サイコー!!

第32回関東支部総会報告

総会実行委員 平成2年卒 寺崎隆行

昨年5月の第32回明善同窓会関東支部総会は、私たちが平成2年卒が担当させて頂きました。先ずは同期集めから始めた準備は、催物の企画・関係各方面との調整など、苦労はありましたが、同期20名で5月20日の

総会本番を迎えることができました。

総会は明善高校内田校長、東京高牟礼会、久留米市内の各校同窓会役員、久留米市東京事務所長など多数のご来賓にご臨席いただき、瀬戸関東支部会長挨拶に続き校長先生から、近年の明善高校での取り組みや、私も所属していたラグビー部から現役東大合格!!といった後輩たちの頑張りをご紹介いただきました。代表幹事、事務局長から説明のあった決算はじめ全議案も満場一致で承認されました。

懇親会は昭和29年卒から、卒業したばかりの平成30年卒まで、148名の同窓生が一堂に会し、空閑明善同窓会副会長からご挨拶をいただいた後、参加者最高齢で昭和29年卒の永末先輩の発声による乾杯で始まりました。歓談の時間がスタートするや否や、会場のあちこちで、昔を懐かしむ声や近況を語り合う声、それらへの笑い声、仲間と肩を組み合って記念写真を撮るフラッシュなどで一気に賑やかな会となり、明善大運動会のDVD上映、アンテナショップ久留米館による物販、恒例のビンゴで盛り上がり、別府前会長の白旗の歌でそのボルテージはマックス！盛会のうちに執り行うことができました。最後は長岡副会長が締め、来年の再会を誓い合い、思い出に残る一日となりました。本総会の準備・運営にご協力・ご支援を頂きました皆様、誠に有難うございました。



第33回関東支部総会「次世代につなぐ明善聖火」

総会実行委員 平成3年卒 田嶋ひとみ

本年の明善同窓会関東支部総会の幹事は、平成3年卒が務めさせて頂きました。私達が明善に入学した翌年に「平成」の幕が開けました。そして、平成から新しい元号に変わるこの年に、明善卒業生としての大役を任されることとなりました。

明善高校は、天明3年（1783年）に高山畏斎が設置した学問所から始まり、200年を超す長い時を経て現在に至る伝統校です。この明善の歴史を元号で遡っていくと、天明、寛政、享和、文化、文政、天保、弘化、嘉永、安政、万延、文久、元治、慶応、明治、大正、昭和、そして平成へと続いてきました。現明善校歌には「伝統長きわが校は」という一節がありますが、

第11回秋明对抗戦開催する

明球会広報担当 昭和51年卒 内田直人

11月3日秋晴れの下、明善高校と秋田高校野球部の第11回对抗戦を東京大学野球場で開催した。これまで明善は2勝8敗と甲子園24回出場（春5、夏19）を誇る秋田に負け越しが続いている。今年こそはと若手20代5人、40代2人を含め久保田監督（S62）のもと19選手で望んだ。白地のユニホームに赤字「明善」姿、最年長は土肥（S31）、観客席にはS31年卒の松平さんと同級生応援団が多数駆けつけた。

先発投手は現役大学生中島（H27）、捕手強肩田尻（H19）、三遊間は足立（H21）、香月（H25）、レフト江崎（H19）、20代5選手中心の最強の守備陣で望んだ。秋田打線は巧打で初回2点先取、3回まで2対0で緊迫した戦いとなった。秋田の先発針金投手も力投、明善3回植田（S62）のライト前安打、その後エラーと四球で1死満塁の反撃開始、しかし後続敢えなくダブルプレイで無得点。明善は4回に友池（S51）、5回に山崎（S53）の軟投投手がショートリリーフ登板するも各回1点奪われ4点差に広がる。一方秋田も小玉監督兼投

こうして元号で遡ってみますと、改めて母校の長き伝統の重みを感じます。

新しい元号へ変わるといことは、新しい時代への幕開けとも言えます。そこで、私達は、明善の良き伝統を新たな世代へつないでゆくことも私達の責務であると考え、「次世代につなぐ明善聖火」というテーマを掲げ、明善の良き伝統を新たな世代につないでいくことに加え、彼らが今後の社会で活躍できるよう、先輩として応援したいという思いを込めています。

そこで、今回の総会は、学生を中心とした若い世代にも多く参加してもらえよう、そして若い世代と明善の先輩方のつながりをつくり、今後、彼らが先輩方から様々な形で支援していただけるようなきっかけの場にもしたいと考え、同期一同、総会の準備を進めています。

具体的には、在校生による新校舎のビデオ紹介、学生参加費の無料化、2020年東京オリンピック新種目、スポーツクライミングで出場を目指す緒方良行君のスピーチ及び支援の呼び掛けなどです。

最後になりますが、当総会が、世代を超えて明善生同士の絆がより深められる場となるよう、そして次世代に明善の誇り高き伝統が受け継がれていくことを願い、務めてまいります。皆様のご参加お待ちしております。



手が軟投でシュートリリーフ明善は反撃できず。6回には足立、田尻の連続安打で出塁するもまたダブルプレイ、7回にも久光（S62）、津留（S62）の連打で塁を埋めるが後続続かずチャンスを活かせない。明善は再度中島投手が登板し快投追加点を許さず引き締まった試合が続くなか、8回三塁エラーで出塁した香月を四番田尻が目覚めるセクターオーバーの2塁打で初得点反撃開始。最終回も久光が三塁エラーで出塁、後続の三塁ゴロ秋田好守で3つ目のダブルプレイ、4対2ゲームセット。往年の2投手の登板失点がなければ2対1の接戦だったかも。



試合終え上野御徒町の居酒屋で恒例の延長戦、両軍入り混じりの混戦が続いた。また、4年後第15回大会は秋田市で開催することを誓った。

明善同窓会関東支部ゴルフ大会開催する

ゴルフ委員長 昭和43年卒 山下政晴

第17回大会を2018年4月21日（土）石岡ゴルフ倶楽部ウエストコースにて開催した。前回は「明善ゴルフは雨」のジンクス通り雨、霧にたたられ中止、今回は絶好のゴルフ日和となりました。S33年卒から61年卒までの19名（うち女性3名）、初参加は御船次雄さん（43年）、青木淳子さん（53年）、平均年齢は64歳と熟年組が頑張っています。平均クロスは102（80〜142）。優勝は平安清剛さん（61年）ぶつちぎりのネット61。ベスグロは本田匡史さん（55年）の80。

第18回大会は2018年10月13日（土）千葉県M1ンレイクGC市原コースで開催した。通常は25名前後の参加が、今回は過去最低の8名。（S41年卒からS61年卒まで、平均年齢は65歳と毎回ながら熟年組が張り切っております）優勝はクロス86、ネット69で嶋田哲さん（S44）でベストグロスも獲得。参加者のクロスは86〜137で平均は102。平均年齢を下げるべく、若い卒業生の参加を期待しています。平成の卒業生、大学生大歓迎、上手い、下手に関係なく、気軽に参加して下さい。年代を超えての親睦が目的です。

次回は4月20日（土）葉山国際CCにて開催します。参加希望者はこちらへ maxyama11312@kssbiglobe.jp

編集後記

SSH活動で活躍する明善生徒たちを嬉しく、一方で先生方や正木先輩のご苦勞も、いずれにしても明善卒業生が科学立国への一助になること期待する。41年卒古希京都奈良旅行、「47年卒特集」緑寿金沢北陸旅行、51年卒還暦お伊勢参り、いずれも再会・合流までの苦勞もあったが無事に楽しい修学旅行ができ、健康の有り難さ感じたようだ。今年の総会に学生の参加者が増えるよう幹事が尽力している、よき先輩同窓生に会えて参加してよかった総会になることを願っている。学生諸君の参加楽しみにしています。（内田）